

平和な未来へ

一宮市立三条小学校 四年 森 奏輔

今年、ぼくは大阪万博へ行きました。世界中の国が集まって、ことなる文化を持つ国々が交流し、おたがいの理かいを深めたり、未来や地球のことを考えたりする場所です。万博では、かんきょうやいりょう、食べ物のことなど、多くの問題について話し合われていて、世界の人たちが協力していることが分かりました。そこには、たくさんの笑顔がありました。

ました。でも帰り道、ぼくの心には、一つのぎ問がのこりました。それは、「戦争はどうして終わらないの？」ということです。

ぼくはテレビで戦争のえいぞうを見ると、おねがいたくなり、かわいそうな気持ちでいっぱいになります。どうしても、人をぎせいにするのでしょいか。人をころすと、ふつうはつみになり、ばつを受けます。でも、戦争で人をころすと、国からほめられます。人をきずつけることは、ぜったいにしてはいけない

ことなのに、それがいいことになるなんて、
ぼくにはどうしても分かりません。

今、世界のどこかでは、ぼくと同じ子ども
たちが、子ども兵士として軍の協力をさせら
れているそうです。これは、生きていくため
には、仕方がないことなのかもしれません。
でも、子どもが戦争にまきこまれ、こわい思
いをすることは、とてもかわいそうです。本
当は、友達といっしょに遊んだり、勉強した
りすることができるはずですよ。ゆめを見る時

間だって、子どもにはあると思います。

万博は、未来のため、平和のために、世界
の人が仲良く考える場所です。でも、現実
は、ちがいます。戦争はまだ終わっていないし、
悲しい思いをしている人がたくさんいます。
何も悪いことをしていない人たちをきずつけ
た、たった一つしかない命をうばう戦争に、意味
があるとは思えません。

ぼくは戦争に反対です。今すぐ戦争をやめ
てほしいです。日本は、終戦から戦争をして

いないけれど、本当に平和と言えるのでしょうか。戦争をしていないだけでなく、はんざいりつが低く、社会的な不平等がない国こそが、本当の平和な国だと思います。

ぼくは、悲しい思いをする人をふやしたくありません。でも、ぼくがどれだけ「戦争はだめだ」と言っても、世界はすぐには変わりません。子どもたちの声は小さくて、力がないのかもしれない。それでも、ぼくは思います。小さな声でも、たくさん集まれば大きな声

になるはずです。今のぼくにできることは、金をしたり、「戦争に反対」と言い続けたりして、少しでもひがいを受けている国の力になることです。この小さな積み重ねが、平和な世界の実現に一步步近づくと思います。ぼくが万博で見た未来が本当に来ますように。戦争がなく、世界中の国が協力し合い、みんなが笑っていられる、そんな本当の平和な世界になっ、てほしいとねがっています。そして、ぼくはそんな世界をつくりたいです。